

## 在外日本古美術品保存修復協力事業 (②セ04-15-5/5)

### 目 的

日本の文化財は欧米を中心に海外でも多く所蔵されている。しかし、これらの保存修復の専門家は海外にほとんどおらず、多くの博物館などで適切な処置に窮している。そこで、海外で所蔵されている掛軸などの紙本絹本文化財および漆工芸品のうち、本格的な修復が必要な作品を一旦日本に運び修復して返還することを目的としている。また、研修、共同研究等を通して日本の文化財修復に対する理解の深化、修復技術の移転を行う。

### 成 果

#### 1. 作品修復 修復中作品5点

ア) クラクフ国立博物館（ポーランド）所蔵作品3点（宮川長春作「遊女と禿図」1幅、中林竹洞作「瀑布溪流図」1幅、狩野中信作「月下秋景図」1幅）

イ) ナショナルギャラリーオブビクトリア（オーストラリア）所蔵作品2点（「親鸞聖人絵伝」4幅、佐々木泉玄作「般若図」1幅）

#### 2. 海外調査 3件

ア) インディアナポリス美術館（アメリカ）、絵画調査、2016（平成28）年2月8日～12日。

イ) 英国ロイヤルコレクション（イギリス）、漆工芸品調査、2016（平成28）年2月15日～19日。

ウ) 文化省等（アルゼンチン）、協議および概要調査、2016（平成28）年2月27日～3月4日。

#### 3. 研修 5件

ア) Workshops on Conservation of Japanese Art Objects on Paper and Silk、場所 ベルリン国立博物館 アジア美術館（ベルリン・ドイツ）：(Workshop I) “Basic-Japanese paper and silk cultural properties”、2015（平成27）年7月8～10日、参加者25名。他1件。

イ) Workshops on the Conservation and Restoration of Urushi (Japanese Lacquer) ware、場所 ケルン市博物館東洋美術館（ケルン・ドイツ）：(Workshop I) 2015（平成27）年11月13～14日、参加者6名。他2件。

#### 4. その他、協力・共同研究等

共同研究：ドレスデン国立美術館陶磁器資料館（ドイツ）所蔵「染付蒔絵鳥籠装飾広口大瓶」。他1件。

#### 発表

・ Masato KATO, Takayuki KIMISHIMA, “Karibari: The Japanese Drying Technique” Adapt & Evolve 2015: East Asian Materials and Techniques in Western Conservation, Brunei Gallery, SOAS, University of London 15.4.8-10

・ 楠京子、山田祐子、加藤雅人、君嶋隆幸、井上さやか「キンベル美術館所蔵『二十五菩薩来迎図』修復事例報告」文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.28

・ 山田祐子、加藤雅人、楠京子「紙本、絹本の修復に使用される補彩絵具の変色」文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.28 他2件

#### 刊行物

・ 『在外日本古美術品保存修復協力事業 二十五菩薩来迎図』 東京文化財研究所 15.3 他3件

### 研究組織

○川野邊渉、加藤雅人、江村知子、山下好彦、楠京子、山田祐子、小田桃子、山之上理加、嶋原由美、後藤里架（以上、文化遺産国際協力センター）、早川典子（保存修復科学センター）、小林達朗（企画情報部）、鈴木絢香（研究支援推進部）、杉山恵助、大河原典子（以上、客員研究員）

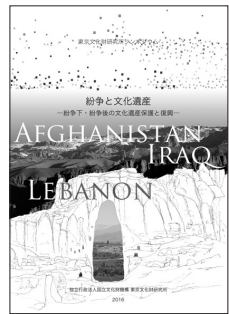
『キルギス共和国チュウ川流域の文化遺産の保護と研究 アク・ベシム遺跡、ケン・ブルン遺跡-2011～2014年度-』（②セ03の一環として実施）

本書は平成23年度から26年度にかけて、キルギス、アク・ベシム遺跡及びケン・ブルン遺跡において文化遺産国際協力活動の一環として実施した調査研究事業の報告書である。アク・ベシム遺跡の発掘調査で出土したイスラーム時代の遺構や遺物、動植物遺存体、放射性炭素年代結果等についての報告及びケン・ブルン遺跡の測量と表面採集遺物の分析結果を掲載した。補遺には漢文史料に基づくアク・ベシム遺跡の歴史学的考察も収録した。日本語、2016年3月刊行、108ページ。



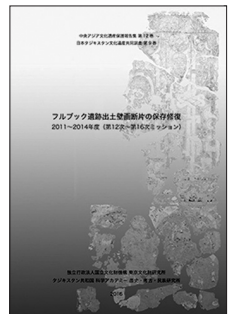
『紛争と文化遺産—紛争下・紛争後の文化遺産保護と復興—』（②セ03の一環として実施）

2016（平成28）年1月24日に東京文化財研究所において開催されたシンポジウム「紛争と文化遺産—紛争下・紛争後の文化遺産保護と復興—」に関する報告書である。4名の講演者による4本の講演と、パネルディスカッション「紛争下・紛争後の地域における今後の国際的な文化遺産保護協力の在り方」を録音音声から起こし、整理・日本語訳したものを収録している。日本語、2016年3月刊行、91ページ。

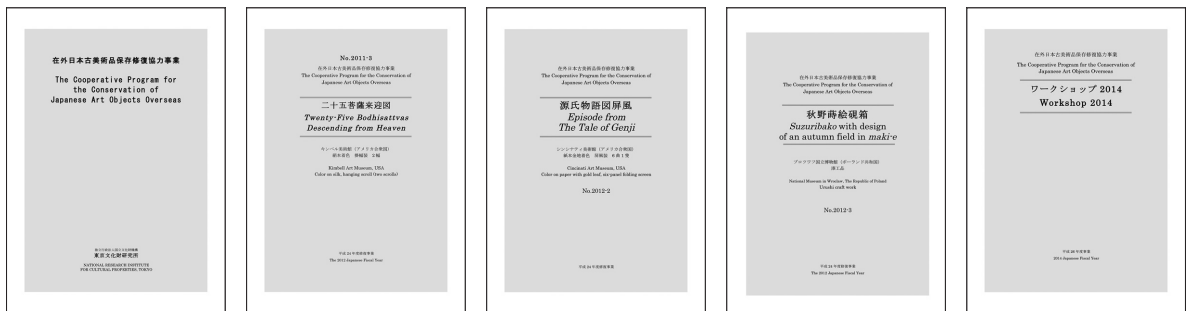


『フルブック遺跡出土壁画断片の保存修復』（②セ06の一環として実施）

本書は、2008（平成20）年より2014（平成26）年までタジキスタン国立古代博物館において実施した、フルブック遺跡出土壁画断片の保存修復事業の最終報告書である。フルブック遺跡は同国南部に位置する9～11世紀半ばに利用された都城址であり、1983年には、本来壁面幅1m×高さ2mに描かれた壁画の一部であった10～11世紀の製作と思しき壁画断片が発見された。この壁画断片を対象として実施された調査及び保存修復処置、そして博物館での展示に至るまでの一連の保存修復事業の成果を報告した。日本語、2016年2月刊行、159ページ。



在外日本古美術品保存修復協力事業 The Cooperative Program for the Conservation of Japanese Art Objects Overseas（②セ04の一環として実施）



在外日本古美術品保存修復協力事業では海外で所蔵されている紙本絹本文化財および漆工芸品のうち、修復が必要な作品の修復協力を行っている。また、日本の文化財に対する理解の深化、修復技術の移転の目的でワークショップを開催している。本事業の報告として、以下の報告書を刊行した。日本語・英語、2016年3月刊行。

- 「在外日本古美術品保存修復協力事業」(20ページ)
- 「在外日本古美術品保存修復協力事業 二十五菩薩来迎図」(84ページ)
- 「在外日本古美術品保存修復協力事業 源氏物語図屏風」(56ページ)
- 「在外日本古美術品保存修復協力事業 秋野蒔絵硯箱」(32ページ)
- 「在外日本古美術品保存修復協力事業 ワークショップ2014」(12ページ)

**国際研修「日本の材料と技術による保存修復」(②セ04、⑤セ05の一環として実施)**

本書は、平成27年度に東京文化財研究所文化遺産国際協力センターが実施した以下の国際研修、「紙本絹本文化財の保存と修復」(7月8日～17日、ドイツ連邦共和国・ベルリン)、「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」(11月4日～12日、メキシコ合衆国・メキシコシティ)、「漆工品の保存と修復」(11月13日～26日、ドイツ連邦共和国・ケルン)について、及び新規国際研修「染織品の保存と修復(仮称)」の為の協議を、記録したものである。日本語・英語、2016年3月刊行、329ページ。

